

市は、第二保育園跡地の売却急ぐな 住民・自治会とよく話し合い、防災の機能を残せ

市は、栄地域の第二保育園跡地の民間への売却を検討しています。同園は、栄住民の一時避難施設であり住民・関係者は、一時避難所としての機能を残すことを強く求めています。日本共産党は、みなさんの願いを市政に反映させるため、全力でがんばります

住民には最良の避難場所



野洲市は、第二保育園は、目的利用がなくなり、不要財産であり、売却するとしています。

しかし、地域住民が求めているのは、災害時の避難場所であり、十分に公的な役割です。

栄地域は、四方を鉄道、河川、主要道路に囲まれたうえ、住宅が密集しています。第二保育園跡地は、地域の中心部にあり、適切な広さがあり、地理的にも最良です。

自治会の要望に、市は、自治会や住民に、買い上げや借地化を求めています。これは、防災の仕事住民に押し付けるとんでもない本末転倒です。

防災公園として整備活用を提案

日本共産党の女性市議は、地域の防災問題を繰り返し、取り上げてきました。

3月の市議会では、地域の要望も紹介し、第二保育園跡地を防災公園として、整備することを提案しました。市は、具体的な回答はなく、売却の市の方針を（住民に理解を求めると聞き直りました。防災公園整備は市街地では、他市で整備がすすんでおり、現実的な対案です。



公有地の防災への活用に再検討を

日本共産党 女性・現職市議

野洲市では、各自治会が自主防災組織をつくり、防災問題を自らの課題として取り組んでいます。

本来、市民の防災は、市の中心的な仕事の一つです。市民は自主的に協力をおこなっていますが、せっかくの公有地を避難所として継続的に活用してほしいという、地域の要

望は、当然の願いです。自主防災の関係者が求めている、災害時の必要な活動拠点の確保は、本来、市が責任をもつべきです。

今回の問題の根本には、市が防災に責任をもつのか、どうか問われます。合わせて公有地の有効活用にもかかわる問題です。